

概要

- 西牟婁地域の基幹作物であるうめは、冬季の気象条件により作柄が大きく変動し、生産量や価格が不安定になっている。また、農業従事者の減少や高齢化が進んでおり、産地を維持していくためには、収穫やせん定等の管理作業を大幅に軽減させることが必要である。
- 農業水産振興課では、主力品種である「南高」の生産安定と省力化を目的に、結果枝を増やす摘心処理に低樹高コンパクト整枝を組み合わせた技術の導入を推進した。
- その結果、摘心栽培面積13.1ha、低樹高コンパクト整枝導入面積2.1haとなり、生産安定と管理作業の省力化に向けた技術の導入が図られた。

具体的な成果

(1) 摘心による超省力枝梢管理技術の確立

① 春季摘心処理講習会の実施

摘心栽培に関心のある生産者やJA営農指導員を対象に管内4地域で講習会を実施。春季に1～2回必要となる摘心処理は、電動バリカンの使用が効率的であり、亜主枝等の背面に立枝をなくすことで水平気味に一振り処理できることを指導し、生産者の取組への意識を醸成できた。

② 夏季摘心の追加処理

春季摘心は主に結果枝の増加による生産安定を目的に実施するが、収穫後の夏季に摘心処理を追加処理することにより徒長枝の発生が極力少なくなり、冬季せん定作業の大幅な省力化につながった。

摘心栽培面積 R5: 10.1ha → R6: 13.1ha

(2) 低樹高コンパクト整枝の導入

樹高が高いうめ成木樹では、主枝を約2.5mの高さで切り下げるカットバック処理、改植時では苗木を斜め植えして一本主枝の低樹高コンパクト樹形とするムカデ整枝を推進し導入につなげた。

低樹高コンパクト整枝導入面積 R5: 1.0ha → R6: 2.1ha



電動バリカンによる摘心処理の実演講習

(3) 技術指導者の育成

上記技術の早期導入を図るため、JA営農指導員に対する技術の直接指導や現地実証園の運営、講習会の開催はJAとともに実施するなど技術を共有し、技術指導者を早期育成できた。

技術指導者育成数 R5: 2人 → R6: 4人

普及指導員の活動

平成25年～
令和4年

- 県うめ研究所の成果をもとに、主力品種である「南高」の摘心処理技術に関する実証ほを設置し、生産安定技術の現地実証を開始。

令和4年～
令和6年

- 県うめ研究所が令和4年2月に発行した「「南高」の摘心処理およびカットバックによる低樹高多収栽培マニュアル」をもとに、摘心+カットバック処理実証ほを設置し、生産安定と作業省力化の現地実証を開始。

令和6年～

- 冬季せん定作業等の管理作業を省力化するため、春季摘心処理に夏季摘心処理を追加した実証ほを設置して超省力枝梢管理技術の検討を開始。

普及指導員だからできたこと

- 専門技術を持ち、試験研究機関の技術を知る普及指導員だからこそ、生産安定や作業の省力化のための技術導入を提案し、現地実証ほでの講習会開催や個別指導により農業者の関心を高めた。
- 日頃から連携している先進農業者、JA、試験研究機関、県行政等の関係者をコーディネートし、新技術の導入に向けた産地全体の取組を進めることができた。

和歌山県

うめの超省力枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝の導入 推進による産地維持

活動期間：令和6年度～継続

1. 取組の背景・ねらい

西牟婁地域の基幹作物であるうめは、冬季の気象条件により作柄が大きく変動し、生産量や価格が不安定になっている。また、農業従事者の減少や高齢化が進んでおり、産地を維持していくためには、収穫やせん定等の管理作業を大幅に軽減させることが必要である。

そのため、主力品種である「南高」の生産安定と省力化を目的に、県うめ研究所で開発された結果枝を増やす摘心処理に低樹高化（ムカデ整枝、カットバック処理）を組み合わせた技術の導入推進に取り組む。

2. 活動内容

（1）摘心による超省力枝梢管理技術確立

うめの摘心処理による着果安定及び作業省力化のため実証園を設置し、講習会を開催した。

園地	春季摘心処理日		夏季摘心 処理日	講習会
	1回目	2回目 ^(※)		
田辺市新庄町	4/18	5/17	6/6	4/18 春季摘心、11/15 せん定
〃 上芳養	4/26	5/14	—	4/26 春季摘心
〃 下三栖	4/24	—	6/6	11/22 せん定・カットバック
〃 秋津川	5/2	—	6/19	5/2 春季摘心、10/17 カットバック指導者
上富田町岡	4/25	5/24	—	4/25 春季摘心、11/7 カットバック指導者

※処理年数が浅めの樹や着果不良樹では、5月下旬に2回目の追加処理を実施

（2）低樹高コンパクト整枝の導入推進

①ムカデ整枝

幼木のコンパクト整枝法として、ムカデ整枝栽培講習会を田辺市新庄（4/18）で開催した。

②カットバック

成木の収穫等の管理作業の省力化に向け、カットバック整枝と摘心処理と併せた講習会を田辺市秋津川（10/17）、上富田町岡（11/7）で開催した。

（3）指導員を対象とした講習会

省力化技術を普及させる指導者を育成するため、JA紀南営農指導員を対象としたカットバック処理の実演講習会を田辺市秋津川（10/17）、上富田町岡（11/7）で開催した。

3. 活動の成果

(1) 摘心による超省力枝梢管理技術確立

① 春季摘心処理の講習と現地実証

摘心栽培に関心のある生産者 38 名と J A 紀南営農指導員 6 名が参加。講習会では、垂主枝等の背面には立枝を少なくすることで電動バリカンを水平気味に一振りでも処理でき効率的であることを指導した。参加者からは「電動バリカンを使うと、効率的に摘心処理ができそうだ。さっそく導入してみたい。」との感想があった。

② 夏季摘心の追加処理

冬季せん定作業の省力化を目的として、春季の摘心後に伸長した新梢を夏季の摘心処理として電動バリカンによりせん除した。1 樹当たりの処理に要した時間は、電動バリカン処理に約 20 分、残った太枝の除去に手ばさみで約 10 分程度であった。その後処理樹では、徒長枝の発生がほとんどなく、冬季せん定作業の省力化につながる事がわかった。

(2) 低樹高コンパクト整枝の導入推進

① ムカデ整枝

令和 6 年度、当地域の導入面積は 100 a、実践農家数は 8 戸である。今後新たに導入を検討している農家もあり徐々に面積拡大しつつある。

② カットバック

当地域の導入面積は 112 a、実践農家数は 3 戸で、今後さらに拡大させる予定である。

(3) 指導員を対象とした講習会

講習会では、せん定では枝の間引きや結果層の切り揃え方、カットバック処理では樹高の切り下げ方法などを留意点として伝え、技術を共有した。今後、経験を積むことにより技術者として活躍することを期待している。



春季摘心講習会



夏季摘心処理



JA 紀南営農指導員による
カットバック処理実習

4. 農家等のコメント（上富田町 I 氏）

令和 6 年産の梅は地域全体で不作となり、我が家も例年の半分であった。摘心処理実証園では、比較的着果がよかったように思われた。また、カットバック処理をすることで、樹勢が極端に低下しないか心配していたが大丈夫であった。

今後、我が家も摘心にカットバックを組み合わせ、梅の安定生産と作業の効率化を図りたい。

5. 普及指導員のコメント（西牟婁振興局農業水産振興課普及グループ・主任・橘実、副主査・竹中正好）

技術普及に向けては、現地への実証園の設置が最も効果的であるとの考えから、田辺市や上富田町内に5か所の実証園を設置した。定期的な講習会の開催により、摘心処理や摘心樹のせん定、カットバック処理など実演を通してわかりやすい技術指導に努めている。JA 営農指導員や園主とも技術を共有し、共に地域への普及に取り組みたい。

6. 現状・今後の展開等

生産安定や労力軽減につながる摘心処理、低樹高コンパクト処理の講習会には多くの参加者があり興味を示す農業者も多いため、今後とも継続して講習会の開催により導入を推進する。

また、産地への技術導入を加速化させるため、JA 営農指導員など省力化技術の指導者の育成にも精力的に取り組む。